

総合現象としての 「観光」を捉える



観光学部 教授

小槻 文洋

OTSUKI

FUMIHIRO

略歴

神奈川県出身。東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻修士課程から、同研究科広域科学専攻(人文地理学)博士課程に進学。外務省専門調査員(在スリランカ日本大使館政務班)の勤務をへて単位取得退学。修士(学術)。神戸夙川学院大学観光学部観光学科准教授、神戸山手大学現代社会学部観光学科准教授を経て現職。

専門分野

観光学、観光ホスピタリティ教育、サステナブルツーリズム

研究活動

観光学の理論的な側面に広く関心があります。サステナブルツーリズム、観光の影響、観光経験などの海外の研究成果は日本の観光の今後を考える上でも重要です。できる限り最新の書籍に目を通し、重要な議論は日本語で紹介しようとしています。自分の知らない理論的枠組み、研究方法、技術革新や人々の志向の変化による観光の新しい動きを知ることができると、新鮮な驚きと喜びがあります。

本学における研究テーマは、観光学と教育の二つに分けることができます。観光学では、インバウンドビジネスや地域観光のあり方、ITの活用による観光の変化などの実務的な議論、サステナブルツーリズムや、観光の影響、観光経験など観光学の理論的な議論に関心があります。もう一方で、観光人材の育成や大学教育の効果的なあり方にも関心があります。インバウンドビジネスや地域観光の担い手に必要な知識・技能・態度を明らかにし、地域観光の現場での研修やOJTに活かすこと、大学における観光教育の目的や、オンライン授業を含む適切なカリキュラムのあり方を考えています。

担当授業

観光資源論、サービスマネジメント論

講義形式の15回の授業で伝えられることには限界があり、授業の内容や組み立てにはいつも試行錯誤しています。もっと学生同士の学び合いが進むような授業を目指したいと思っています。

2020年度の2・3年スタジオ(ゼミ)はどちらも中国・ベトナムからの留学生のクラスです。皆さんがそれぞれ頑張っていて、将来の仕事も真剣に考えています。

学外での取り組みなど

日本観光研究学会、日本観光ホスピタリティ教育学会、観光学術学会など複数の学会に所属し、今年には日本観光研究学会の国際委員、日本観光研究学会関西支部の幹事などを務めています。

過去には2019年度に本学の社会人向け講座や、2020年度環境省国立公園誘客の推進事業を担当しました。また、2020年度は他大学でも非常勤講師として、サステナブルツーリズムやダークツーリズムなどの授業を担当しました。

SDGsへの取り組み

「サステナブルツーリズム」は直接、SDGsにつながります。国連の世界観光機関(UNWTO)も、観光がSDGsのためにできることを声明として発表しています。サステナブルツーリズムについては、他大学や地域人材育成事業でも授業を担当しています。

